

日本原子力研究所の敷地について

原子力委員会発表  
三一・四・六

日本原子力研究所の敷地については、予ねて積須賀市武曲を候補地として選んで来た。しかるに政府としては種々の事情により、候補地選定について本委員会の再考を促された。

原子力研究の開始は至急を要し、従つて敷地の決定はこれ以上遅延を許さないので、本委員会は慎重に審議して改めて、茨城県東海村を候補地として選ぶこととした。

元来原子力研究所は一ヶ所にまとめて設置するのが理想的である。二ヶ所以上に分れることは研究者の分散、施設の重複、総合研究の困難等の種々の不便がある。しかしながら一方において、研究者の便宜ということも忘れてはならない点である。研究開始の初期の段階では、日本原子力研究所員以外の学者の協力を要することも多いので、この点は特に注意を要する。この研究者の便宜の点や又既存施設の利用可能等の事情に重きをおき、まず実験炉の段階は、武曲で行うことが適當であると決定したわけである。

今日改めて東海村を選んだが、これは地域が広く、実験炉から動力試験炉の段階までを一ヶ所で研究し得る利点がある。及面比の地は交通が不便で、研究者の立場からは多少の欠点が認められ又施設の完備にやゝ日時を要するである。これらの欠点を克服するために、できるだけの設備を至急施して研究の促進をはかるよう努力したいと考える。

尙この度の件については政府が原子力委員会の決定を充分検討の上、改めて本委員会の再考を促されたので本委員会もこれを諒とした攻策である。原子力委員会設置の趣旨にかんがみ、政府は今後も委員会の決定を尊重されることを希望する。

c112-015-005